

誹諧通言

人倫



江戸合九流著

邪馬原(洛西)をま

昔の白拍子といふものなり。昔の白拍子といふものなり。昔の白拍子といふものなり。

天神

天神

麻意

麻意

亦表して羽波と云ふ新き東流ひ也なり **雲水** 羽波
此て新波中一と揚登之婚礼の式なり **雲水** 羽波
ある様式云々 **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
遠くなり **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
羽波と **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
為帯なり **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
を **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
かり **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
ま **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
を **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
と **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
風 **雲水** 羽波 **雲水** 羽波
と **雲水** 羽波 **雲水** 羽波

輝威の身を **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
形 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
法 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
あ **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
八 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
男 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
品 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
互 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
同 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
同 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中
六 **御** 廓中 **御** 廓中 **御** 廓中

おろしりゆ人の
次を罷せたり

浪花新町 (浪中) 左史

麻中女弟の上より小立おまふ法氣
をさふえげと容美風俗猪と一を

撰し職おまをかり放ふき人

天神

法より清尔と同指を更
つとく揚屋えり華や二

出せば位も上中下にてんじん

小天神

中の見世天神 親女弟を常
とて扱ふ

小日括傘 足かき氏

麻子位

は廓までハ部の香りおま
はよもはあなとくハ和氣

女弟 價中おま

彩造

吉系清尔同一括ありとハ廓小
てハ彩造出のハか門の暖は原よ

お緒の香ひきき
なるあり

引舟

彼の扇登と香より
連始る今ふとえま

禿

他本と違ひハ
の先ハ毛持式言く

楊屋より喚ひ運ふき
女ハラウクヤウク

栗江女郎

享保年中より飛雲子始り
香以女弟中級せり

飛雲子

おら系とたいこらち
の香利彩左の流を付を固

秀吉公のお伽より
娘り左衛を拵といふ

仲居

は廓でハ娘ての客人ハ左史をかりて
えりハ時付居一人博く左史の名載

のあく呼出一一堂をまめるをかり非といふ又左史の
拵屋入小志ハへむひふお拵分ハお桃灯を拵り
友ハ廓
てハ左史を拵り
さしつりハ拵りハ拵りハ拵り

弁慶

親友お付ありハ
艶男 拵て着き
色男なり

同嶋之内 (浪南) 伯人

は里のてハ素人といふ
伯人とハ女弟の懸名なり
栗立女

月く伯人
女弟のり

髪梳女

是ハ凡呂株の女弟のりハ凡呂
株の次妻く居るの拵小わり
飛雲子

娘と申公人ふとやち、義方史義子、**仲居**、弟所の仲居ハ揚と
ニ取あつたり、**左扱**のりまのあり、**仲居**、弟所の仲居ハ揚と
やとのかうわ、**雁仲居**、別小葉帯を揚く事也、**早男**、祇園所と
まぐく、**雁仲居**、の用安及と記居とる事なり、**早男**、祇園所と
飛、

肺、ハ里下ハ法、**空控集**、女前を号す此色西也、
用とる事あり、**空控集**、女前を号す此色西也、
名女を物山とよぶハ神代の扱の座主にて、**婿嫁**と
とふへん事とよ方あり、**控女**、乃事なりあり、**都人**、乃
里別也、**田舎**、**釋**、法支の法何ふ、
者をりあり、**釋**、法支の法何ふ、
又い、い人、**不釋**、又高涼
さるものを、**不釋**、又高涼
あり、ハ外、**不釋**、又高涼
後、ハ外、**不釋**、又高涼

神釋、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

春、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

浪中、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

浪南、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

愛深糸、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

洛西、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

神釋、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

洛東、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

沖忌、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

江吉、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

惠比須、ハ外、
あり、ハ外、
後、ハ外、

二月朔、上皇入込廓中、（新町の郡の
少少の）無忌留す、**初午**○九身助稻荷、（りり名もま
そのも）あり、**後、中稻荷**、（あり）伊戸町、**昭石稻荷**、（あり）伏見丁、**老敬稻荷**、（あり）赤田

若座稻荷、（あり）廓外五十男小あり、（あり）日下町と、（あり）城を、（あり）取分

洛西 菜種供、（あり）二月廿六日、**浪南** 汝于、（あり）三月三日、**雜**、（あり）三月三日

洛西 壬生乞、（あり）三月廿六日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

東寺法 穀供、（あり）二月廿一日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

復日 洛西 壬生乞、（あり）三月廿六日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

中 通 洛東 灌佛、（あり）四月八日、**洛西** 住吉洲、（あり）六月十九日

浪南 津田、（あり）六月廿八日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

浪南 津田、（あり）六月廿八日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

浪南 津田、（あり）六月廿八日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

浪南 津田、（あり）六月廿八日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

浪南 津田、（あり）六月廿八日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

浪南 津田、（あり）六月廿八日、**江吉** 三社祭、（あり）二月十八日、**佛生會**、（あり）四月八日

十二月十七日十八日浅草大市正月のいひ庭火大佛日の夜より秋女帝の座に葉秋

葉常能事申の座に通神女帝の座に

乃飛舟のちりあきみの貞保正保の以角丁系とのひー女帝名藤のさすまかり後刺髪して自生尼享保の以の妻

廓をぬく世を親し浪中茶喫法喜寛文乃

通の船形な女帝な元日のま妙材廓

親者ふ縁を入り家を出す親音裏浪南お

天竺と一等小州を接す親音裏浪南お

りの揚枝は付の本住善ふおのあまとく海路のあ井あり

而持とれ夫婦とありぬ女帝とありぬ自安寺妙見同福あり

唯お目ちとありぬ福の社の境内洛東主夜神二條の

檀中小社ありぬ福を所ちのちとありぬ目病地蔵同福園所よりなりちの山

妙元祇園とありぬ浪南又又大方は吉更の備の天の花の

念佛丹屋江吉念佛丹屋は江所とありぬ女帝の座にあり

突入とありぬ念佛丹屋を唱さすがま若者とありぬ又更とありぬ念佛丹屋とありぬ

津の國沖傍田の中小なりの中へは空上人小僧
 頃城塚 城み人の控女前なる沖傍川へ所を留め空一く
 まへに夜み人の控女前なる沖傍川へ所を留め空一く
 里人死體を云上げ葬りて空を是を似塚塚と名号
 て今小あり三塚中より一浪中 之骨塚 寛文年中どん
 可なりと序ふまふと云らん
 入も志つとる廟や夕ざり塚あり大坂十ち所いづ
 津寺あり建宝六年午正月六日病死 井筒と云
 信 佐原島西舟波産地へ井筒勅の肉小所なり一者の俗
 名法名を考る一 津彦吊ひしと云まてく時代詳あり
 三勝 塚 乃城塚子目山あり元禄の以藤子と名法を三
 本和名傳書を考る七といつりのとん中せしを

若井中は魚家孫也芝石少て相去りて大入大無名
 右の石碑を芝石所存すは長徳を建て今小なり
 尾墓 三浦左代の全聖人の能あつとる女帝有り真名とるら
 う細めつり 寛文の以博町所全左の女帝名列の寛文子細めて
 宋女場 厚重左の格子先少と控身考るそ夜宋女と名成
 此の池浅き系鏡の池いそ身を殺充しくぬ
 静 是れ寛文の以江下丁五左の抱少と毎日髪を洗ひ水髪
 髪して危と成り 誰哉 昭曆の以江下丁五左目田左抱乃
 彼乃小出なり 女帝誰哉ある夜月四さ小揚やより
 為るたわく物考ともおれ重親若小及び空とるお子知ま
 此の後の月心の乃以時より廓中小形體を出さるのんしまる

江吉 高

す 沖忌の袖正月の忌の因り 衣更知月と全 葛蒲花

子六月六日の 涼揃六月すこの内足ぬくのけい子 汗あせて

拭綿呂綿細少く 白袋綿細酒少く三角 提提子

子女布 櫻小巾 糸のま 古金 襟竹 所所 袂袂 綿綿 振振 糸糸 足足

世揃是も足せ 包包 頬頬 加加 むむ 紫紫

借借 蓑蓑 包包 頬頬 加加 むむ 紫紫

のの 衣衣 箱箱 をを 包包 むむ 是是 をを 道道 一一 男男 禰禰 帯帯 床床 入入 のの とと 足足 するする 鏡鏡

袋袋 女女 子子 懐懐 中中 一一 糸糸 箱箱 をを 時時 々々 小小 延延 加加 是是 のの 糸糸 箱箱 造造

化化 務務 乃乃 江江 吉吉 仕仕 者者 若若 松松 提提 拍拍 光光 のの 仕仕

二二 日日 者者 仲仲 のの 更更 手手 礼礼 小小 出出 若若 松松 提提 拍拍 光光 のの 仕仕

府府 左左 深深 古古 播播 のの 深深 控控 拍拍 有有 衣衣 更更 首首 蒲蒲

帷帷 子子 是是 若若 知知 也也 代代 其其 浴浴 衣衣 夏夏 のの 後後 女女 弟弟 子子 若若 信信

女女 弟弟 通通 八八 朔朔 白白 喜喜 信信 目目 巴巴 左左 三三 若若 とと 女女 弟弟 子子 若若 信信 をを

事事 一一 とと きき 白白 玉玉 珠珠 のの 傍傍 一一 若若 信信 のの 下下 一一 若若 信信 花花 のの 為為 合合

めるの風情人皆感歎と一が例とあり九月夜白く又八朝ハ皆白昼垢まで今小仲の丁へかき

仕着 三月年の考おる三付の彩道禿小格くや想く年申の扱入おのんよりすかりやうの他所と違ハ試

廓の格式是經老昌の如也 **夜着** 〇三の痛志 又云の痛志 是も女弟の

今坐少く儲及之別あり者よりすれハ三階少く着麦を配り

家くお備くくの格式あり也を妻初とくくを存するやう

器賊

より扱てすもも **浴西** **花鏡傘** 左史扱入九年の格さうりやう **江吉** 長

扱傘 吉原ハ女弟の代 **浪中** **日扱傘** 格式清示 **江吉** 駒

下 **浪中** 右史下 **箱提灯** 揚をより扱来

浪中 吾妻女下 **種之活盤** 河波度彩塘町位すや

在途ハ何時扱ありむびてくらんを扱をより年 **揚屋の燈籠** 九

所揚屋中屋示灯も書示 **種之活盤** 河波度彩塘町位すや

花の井釣籠 九軒町揚屋位吉原若に名少あり毛ハワあり人

是候と **金銀の圍子** 同を更す扱燈を入かり

左支三休夜の江ハ藤子ハまきす
昔のと似り雲を海をほふやうり

江吉 大松燈籠 女弟の燈籠
大松燈籠 大松燈籠の
女弟の燈籠

所ハ初対岸松の門に水並く是より方小
あき流子花下らあやういじん方あり
大桐子板 宵月松の内侍の
町人あり小虎小

持せたり是ハ中古流を登對ちといふ女弟
持せたり是ハ中古流を登對ちといふ女弟
琴 ○ 鼓 ○

三味線 ○ 尺八 ○ 鼓左鼓 鼓はく何れも
竹算笥

長持 ○ 用算笥 ○ 衣杉 ○ 香具 ○ 煙草盆

是ハ女弟の衣袋の傍にまき流ありむ案より送是ハ丸の紋
付又自身不すまハ自削の紋付高給金具もま流ふ是外の廓
の控女ふあまより吉宗の金
比留異世産 夏の吹流名のまき人
吉宗所り流子をまきたり

居所地名

洛西 越名橋系 ○ 上の町 ○ 中の町 ○ 下の町 ○ 左

支町 ○ 揚屋町 ○ 中堂町 ○ 揚屋 十軒むり
ありま中か

角を使たる 茶屋 ○ 忘八屋 ○ 小向 中堂町の
出口

名代 さくらを垣 ○ 衣紋橋 ○ 丹波口 ○ 朱雀遊 ○ 西

口 ○ 中車通 ○ 藝塚山 藤中位吉吉仲の
社後の山を呼ぶあり 龍女墓

不 出は分遠入の **洛東** 祇園町 ○ 切通 ○ 辻子 藤中系
まきを形り

の就方一送る切手やり合ふ
志八掛(由)はりあー **附届の券** (は)は先不多初と女弟

の方より名刺の指子をいさく先きの女弟へ
届の券をやり客人をよりりてすなり **切券** (は)は先も縁切を

同ト **てまへ儀** (は)は元報の比は戸西テめ若松登の券別といふ
金盛大糸挑灯小太のやくとある一とすを

大切勅 **禱の券** (は)は室永の以新町山本の借山実出
の時禱小自筆少く妹脊山流り川乃

為氷ひてそいとも袖はぬぬぬと
金糸少くぬぬを忘しとあり **客帳** (は)は女弟毎日每晚来

る一冊く徳く並完性 **年季證文** (は)は松國をく色町へ
是を客人まんとぐりなり 券を誰か女の法状也

後の時かは法文を後まなり右の外は後朝の券名刺一といふ
客小日紙あぞとるはとくまれりてハ略一又ハとて思の女も

時刻

江吉 送り **柏子木** (は)は柏子木を男達入込と那小喧
めりす縁友也と小おあふを徒扱申性

来の人を柏子木少く送り是より
送り柏子木とあふとまらる **一**ケ音京扱尼せ始りしは

より七ツまで扱はたのより音をとり色しを扱えせしあき也とあ
その思ひ付くく思の禱の時か柏子木を打む九の鐘をおき小

寄の柏子木を打つまほり小九の時をより **七** 出 **一の鈴**
かり信ては廓小八種四引を寄の名あり

夜尼せを出し時のあしそ小 **時酒** (は)は酒盛の祓玉をさす時を
女弟登あしつを拾なり 打の路をすハ幸ひと様で

呑む **居續** (は)は廓少く遠宙といふ **後朝** (は)は朝別とて **東**
あり 両書を外数日も扱あり

ぎぬ 是れ舞のふと
手去 於て恋のゆゑ
浪中 限の左轍
立仕込 ○ 松仕込
片仕込

浪中 限の左轍
洛東 揚先
浪南 揚前

揚先 後日納束のらや
揚前 中半
中半 立仕込のゆり松仕込乃泊

松仕込 七心違
七心違 松仕込の丸松を居

立仕込 ○ 立仕込
立仕込 立仕込

立仕込 立仕込

舞子の逢はなり限りあれど
是日仕込を居るく
松仕込

言説

洛東 三月三日
洛南 初対面
立仕込

初対面 一見
立仕込

立仕込 立仕込

立仕込 立仕込

立仕込 立仕込

女子家也 **女** 女界同土 羅子同土 齊家也 女界の事

花 花は一日一夜志を馳せ物來揚ぐ事六之花

時々の事也 **自** 自は己を指す事

極 **極** 極は至極なり 極は至極なり

附 **附** 附は附也 附は附也

真 **真** 真は真也 真は真也

醜 **醜** 醜は醜也 醜は醜也

娜 **娜** 娜は娜也 娜は娜也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

會 **會** 會は會也 會は會也

村伊山屋豆腐 揚屋所 甘露梅 中の所 甘味 中の所 甘露梅 中の人 甘露梅 中の人 甘露梅 中の人

洛西 左史白粉 上の西油 太史紅粉 水米漬物

より名人 洛東 香煎 祇屋了 小町紅粉 因糸

又也 造花 因所 花屋 花魁所 因糸 浪中

たしあや 西口 廣あや 三津 浪所 因糸 加茂川

漫次 西口 製茶 小豆 紅粉 赤口 浪南 美顔香

京右衛門所 糸 泉屋 由男 製茶 いろは 紅粉 同所 田中 早 乾 左史 揚屋 所

羊羹

京右衛門所 糸 泉屋 由男 製茶 此外數多有後編小出也

諸國花街

丸山 肥前 長崎

下関 長門 稲荷町

大坂町 宮島

室津 播別 勢町

柿町 筑前 竹多

鞆 備後 有砥町

乳守 泉別

高師 同所

蛭子島 月所

撞木町 城見 伏見

中生嶋 同所

柴屋町 江尻 大津

四宮 同所

古市 勢州 山田

青森 津輕 善智

潮来 常別

敦賀 越前

三國 同所

新泻 越後

寺泊 同所

酒田さか羽別はね 走金しゆきん志石しやく 木辻きつじ 岡崎おかざき

彌勒町えんりくまち 磯石いそいし 右河みぎがは 坊を出ぼくをだ 漏も 后ご 編ひ 花はな

是こゝ 上かみ 古跡こせき の部ぶ

江口えぐち 撰州せんしゆ 神崎かみざき 同所どうじよ 鶉野うずの 播石はくし 鏡岩かみいし 江別えべつ

浅妻あさづま 同所どうじよ 野上のがみ 濃石のうし

並木舎なみきや 身み 一ひと 本ほん 次つぎ 編ひ 里り

題だい 一ひと 曲まが 能の 借か 通と 言こと と呼よ ぶ

是こゝ を身み 不ふ 仁に 之これ 都みやこ 如ごと 遊あそ 里り 能の

右みぎ 心こゝろ 今いま 不ふ 年とし 中なか 乃すなは 行い 事こと 追お

乃すなは 手て 乃すなは 渡わた 乃すなは 小こ 男おとこ 麻あし の筆ふで 比ひ

命毛長子取水煙と有

のき集めし紙を張良の胸に

其のせきとるを破く如し由治良

相乞入左右の一物と秘せし

晋子堂

凡強敵

明治八年

五月吉日

仙名市井村

何と止て

第天區

陸前田宮城郡

小七邑

目合甲立甲合

立取格七番

陸前田宮城郡

陵前因宮城神
田分學室於